

平成 18 年度 北海道遺産構想推進協議会事業報告

1 基本的な考え方

北海道遺産は、平成 16 年度の第 2 回選定により、合計 52 件が誕生し、一定の完成形となりました。北海道遺産は選定してからがスタートであり、一つひとつの北海道遺産が、地域の豊かな発想と行動力により保全・活用され、まちづくり、人づくりにつながれることが重要です。また、北海道遺産を取り巻く盛り上がりを選定のブームに留まることなく、確実に次世代に引き継がれ、北海道民の誇りと愛着を生み、長期的に北海道の魅力として定着させていくことが重要と考えます。

北海道遺産構想推進協議会では平成 18 年度から 20 年度までの 3 年間で「発展・拡大期」と位置づけ、北海道遺産の物語を伝えることによる一層の魅力の向上（ブランド化）や、北海道遺産構想の根底にある「地域の宝物を発掘して活用する」という趣旨を全道に普及させること、そして長期的な視点から本構想を推進する体制の整備を活動の柱にしています。

一方、今後の活動予算の減額やマンパワーの状況から、年間の活動内容の絞り込みや、企業・団体等との連携による PR 活動などが従来以上に必要となっています。こうした活動を通じて、発信力を高めるとともに、北海道遺産に関わる市民や地域、行政、民間企業がそれぞれのフィールドにおいて取組を展開することにより、支える層、楽しむ層が徐々に広がっていくことが理想です。

北海道遺産に選定された地域では、フォーラムやパネル展などの開催により遺産に対する理解を深めるとともに、地元におけるボランティアガイドの養成やツアー誘致、特産品の開発、行政と市民の協働によるまちづくりなど、個性豊かな取組が進められています。

また、「北海道遺産応援団」を始めとする民間企業・団体からも様々なご協力をいただき、報道や雑誌掲載、イベントなど多くの北海道遺産の PR の場を得ることができたほか、それぞれの企業ならではの独自の展開や商品開発も進められ、北海道遺産が広がる方向が多岐に渡ってきました。

さらに、平成 18 年度には北海道遺産構想をモデルとした「おおいた遺産」が展開・発表されるなど、本構想の趣旨が全国にも普及し、ますます注目度は高まっています。

2. 事業概要

(1) 北海道遺産の物語を伝える

普及啓発事業

「北海道遺産DVD」の販売（平成17年度）

道内の主要書店およびアマゾンネット、直接申込での販売
平成18年度実績 765本～H18年3月含む・1380千円

「北海道遺産公式ガイドブック」の販売（平成18年9月）

道内の主要書店およびアマゾンネット、直接申込での販売
平成18年実績 720部・550千円

「PR資材の整備」（平成19年3月）

北海道から道産材で作られた「額」の寄贈を受け、52件の北海道遺産を写真でPRできるよう整備した。額はJR札幌駅構内に設けられる「北海道・札幌市 食と観光の情報館」や道庁ロビーなどで季節ごとに入れ替えしながら掲示を行っている。

製作内容：写真パネル（写真サイズ＝縦33cm×横44cm）×52件分
784千円

「情報誌の発行」（平成19年3月）

協議会や地域の北海道遺産に関する各種活動を伝える情報誌を作成した。体裁は交流会議講演・パネルディスカッションの内容を伝えるために4ページから12ページに変更し、発送は平成19年4月に実施することになった。

- ・発行部数：10,000部
- ・体裁：A4判・1C・12ページ
- ・配布対象：遺産選定地域、協議会関係者、応援団企業のほか、イベント出展時などに一般の方々に広く配布を行う。

450千円

「絵手紙・写真コンクールの展示」（平成18年6月30日～7月9日）

平成17年度末まで募集した絵手紙・写真・携帯写真の入選作品の展示会を開催。紀伊国屋札幌本店2階で開催。

573千円

「イベントでのPR」

花フェスタ（6月）や、フードランド（9月）まるごと北海道 in セントレア（9月）などにてパネル展示や北海道遺産ブースなどを展開。

27千円

「大好き HOKKAIDO! 観光プラン大賞」(平成 19 年 1~3 月)

シーニックバイウェイ支援センターとの共催で、新しい北海道の魅力を掘り起こす観光プランを募集し、審査・公表した。

* グランプリ 1 点、準グランプリ 3 点、佳作 6 点

* 共催：有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター

* 後援等：北海道、北海道開発局、北海道運輸局、北海道観光連盟、はまなす財団

* 応募総数：118 件

300 千円

地域活動促進支援事業

「各地域の取組状況」および「観光客の受入体制の調査」(平成 18 年 4 月)

各地域の北海道遺産を活用した取組状況や H17 年度の予定について調査し、各地域や応援団に配付した。それぞれ情報の共有を図ることにより新たな連携機会やビジネスチャンスの創出に努めた。また、各地域におけるガイドの有無などの受入状況を調査し、「北海道遺産ガイド等の状況」としてとりまとめ、各地域や旅行業界などに提供した。

「地域懇談会の開催」(北見市：平成 18 年 11 月、稚内市：平成 19 年 1 月)

協議会が地域へ出向き、役場の担当者や担い手の方々と地域における PR の重要性や今後の活動などを議論した。北見市、稚内市で開催。

304 千円

「北海道遺産交流会議」(平成 19 年 3 月 9 日)

北海道遺産構想を全体で推進していく共通意識を醸成するため関係者を一同に会した交流会議を開催し、北海道遺産選定地域、自治体、開発局、観光関係者など 112 名のご参加をいただいた。

533 千円(うち参加者負担金 300 千円)

* 基調講演：石森秀三氏・北海道大学観光学高等研究センター長・教授

* パネルディスカッション

高橋威男氏・JTB 北海道代表取締役社長(協議会正会員)

岩泉匡洋氏・リクルート北海道じゃらん代表取締役社長(同理事)

石森秀三氏・北海道大学観光学高等研究センター長・教授

辻井達一氏・北海道遺産構想推進協議会会長(進行)

「アドバイザーの派遣等」

地域からの要請により協議会正会員や事務局員が、保全・活用の取組状況や地域資源を活用した観光について必要なアドバイスを行った。

・「十勝岳被災者が語る回顧の集い」(H18.6.6 土の博物館「土の館」 合田選定委員)

- ・「食と観光ステップアップ事業 リーダー会議」(H18.10.6 空知支庁 事務局)
- ・「産業遺産保存に関わるシンポジウム」(H18.10.26 函館市 事務局)
- ・「炭鉱遺産の保存に関わるシンポジウム」(H18.11.25 夕張市 事務局)

「北海道遺産の所在地域間のネットワークの形成」

北海道遺産の所在地域同士の情報共有を図り、相互交流により効果的な取組を展開できるよう、協議会と各地域の担当者とのネットワーク「北海道遺産メーリングリスト」を運営するとともに、地域情報を含めた最新情報についてホームページの利用や、広報資料の作成・送付を行った。

「ばんえい競馬存続へ向けた提案書の提出」(平成19年12月13日)

存続が危ぶまれていた「ばんえい競馬」について、協議会としての存続の要望と、そのための提案を帯広市長に行った。

(2) 構想の趣旨を全道へ普及する

特に事業は実施しなかった。

(3) 協議会の運営について

「総会の開催」

日時 平成18年5月26日 15:00~17:00

会場 札幌アспенホテル

内容 平成17年度事業報告、収支決算及び監査報告、平成17年度事業計画(案)、
収支予算(案)、役員改選について審議

「理事会の開催」

[第1回理事会]

日時 平成18年4月13日 15:00~16:30

会場 ポールスター札幌

内容 平成17年度事業報告、収支決算及び監査報告、平成17年度事業計画(案)、
収支予算(案)、役員改選について審議

[第2回理事会]

日時 平成18年12月4日 10:00~12:00

会場 ポールスター札幌

内容 平成18年度事業経過報告、観光プラン大賞事業等について審議

「賛助会員の募集」

北海道遺産賛助会員について募集し、会員に対して情報誌などを配付した。

「北海道遺産応援団」について

新規加入：株式会社北洋銀行、北海道国際航空株式会社、北海道空港株式会社

脱 会：北海道経済連合会、雪印乳業株式会社

各応援団企業・団体には、協議会への協賛に加え、それぞれの活動の中で応援いただいた。

平成18年度から平成20年度までを構想の「発展・拡大期」として位置づけ、構想の定着を図る旨を説明し、応援団の継続要請を行った。